スポーツを遊ぶ!

近代スポーツ発祥の地をたどる

神田・皇居・後楽園めぐり

神田スポーツ店街
皇居ランナー向け施設
日本武道館
東京ドーム
湯島聖堂

東京文化資源区案内 4　日本語版

表紙の絵は、坪井玄道，田中盛業編，1888，『戸外遊戯法：一名戸外運動法』より、三段跳びのやり方を図解したものです。当時は「ホップ・ステップ・ジャンプ」という名称で紹介された。

スポーツの伝来と受容の歴史を紐解く

近代スポーツゆかりの地を歩く

このマップでは、私たちの生活を豊かにする文化資源のひとつとしてスポーツを捉え、近代スポーツがどのように日本に導入され伝播したのか、その歴史的過程を感じられるような散策エリアをご紹介します。野球・サッカー・テニス・陸上競技・卓球・ゴルフ・ラグビー・バレーボール・水泳・スキー・スケートなど、今日我々が親しんでいるスポーツの多くが明治期に欧米から国内に紹介され定着したものです。その伝来と受容の過程では、お雇い外国人教師や欧米への留学者による紹介、体育教員の養成学校として設立された体操伝習所（後に東京高等師範学校に改組）や、同時期に創立された各大学の体育会といった制度的背景が大きな役割を果たしています。また、それらの外から入ってきた“競技”スポーツの影響を受け、柔術や剣術なども次第に近代的なスポーツへと変貌を遂げていきました。本マップの対象地域である御茶ノ水から九段下にかけてのエリアは、明治時代以降に各種学校や大学が集積し、近代スポーツ受容の担い手であった指導者や学生たちが往き交った場所です。黎明期の日本における近代スポーツがこの地域でどのように受容・発展していったかを巡りましょう。

観て・体験してスポーツを愉しむ

今日では多くのスポーツがエンターテイメントやレジャーとしても親しまれています。プロ野球や格闘技など、観戦体験・応援体験の楽しさを提供している施設や、バッティングセンター・ボウリング場といった遊びの場を提供するスポット、そして自らスポーツをプレイするために必要な道具一式を揃えられるスポーツ店などもこのエリアに集中しています。このマップでは、スポーツ文化受容の歴史を学ぶだけでなく、さまざまな体験型スポーツ文化施設についてもご紹介します。

スポーツ文化資源をめぐる街歩き

スポーツ文化受容の歴史を体験する

このマップでご紹介するスポットは、主に３つのエリアに分類することができます。一つ目のエリアは、御茶ノ水の湯島聖堂から駿河台を抜けて神田錦町にかけての、明治時代の近代スポーツ発祥にまつわる地域です。二つ目のエリアは、プロ野球や格闘技の試合会場、レジャー施設を擁する国内屈指のエンターテイメント施設として展開してきた東京ドームシティのある後楽園地域です。三つ目のエリアはスポーツをプレイする（遊ぶ）文化を支えているスポーツ店街と皇居周辺のランナー向け施設が集積している神田小川町から皇居周辺にかけての地域です。

●「近代スポーツ発祥の地」各スポットの最寄り駅

●御茶ノ水駅（JR 総武線・中央本線、東京メトロ丸ノ内線）
●神田駅（JR 京浜東北線・中央本線・山手線、東京メトロ銀座線）
●小川町駅（都営新宿線）
●神保町駅（東京メトロ半蔵門線、都営三田線・新宿線）
●九段下駅（東京メトロ半蔵門線・東西線、都営新宿線）
●水道橋駅（JR 中央本線、都営三田線）

神田スポーツ祭りでの「ファニーボール」プレイ中の様子。子どもも大人も高齢者も、障がいのある人もない人も、スポーツが得意な人も苦手な人も、一緒に楽しめるイベント。

スポーツ伝来と受容に関する主なできごと

1877年（明治10年）	東京大学が神田錦町と本郷本富士町の旧加賀藩上屋敷跡地に創立
1878年（明治11年）	文部省直轄機関として体操伝習所（後に東京高等師範学校に改組）が神田一ツ橋に設立
1880年（明治13年）	東京 YMCA の創立
1882年（明治15年）	嘉納治五郎により講道館創設
1886年（明治19年）	体操伝習所が高等師範学校体育専修科に改組され廃止
1894年（明治27年）	東京 YMCA の初代会館が神田美土代町に開設
1902年（明治35年）	高等師範学校は「東京高等師範学校」に改称
1903年（明治36年）	東京高等師範学校が湯島聖堂から大塚へ移転
1912年（明治45年）	美津濃商店（ミズノ）が東京支店を神田に開設／ストックホルムオリンピック開催。日本から金栗四三（東京高等師範学校生徒）が男子マラソン、三島弥彦（東京帝国大学法科大学校学生）が男子 100m、200m に初参加
1917年（大正６年）	日本で初めて室内プールを備えた総合体育館が YMCA に建設
1923年（大正12年）	関東大震災
1928年（昭和３年）	アムステルダムオリンピック開催、織田幹雄、男子三段跳びで金競技を通じて日本人初の金メダルを獲得／人見絹枝、女子 800m で全競技を通じて日本人女子初の銀メダルを獲得
1937年（昭和12年）	後楽園スタヂアム開場
1955年（昭和30年）	後楽園ゆうえんち開園
1964年（昭和39年）	東京オリンピック開催、日本武道館開館
1972年（昭和47年）	札幌オリンピック開催
1988年（昭和63年）	東京ドーム開場
1995年（平成７年）	神田スポーツ祭り開設
1998年（平成10年）	長野オリンピック・パラリンピック開催
2007年（平成19年）	東京マラソン開設

近代スポーツ発祥の地マップ

神田・皇居・後楽園めぐり

このパンフレットで紹介した主な施設・スポット

神田スポーツ店街

住所◉東京都千代田区神田小川町～神保町
WEB ◉ http://www.sports-kanda.com/（神田スポーツ店連絡協議会）

皇居ランナー向け施設

●鹿屋アスリート食堂　神田錦町本店
住所◉東京都千代田区神田錦町 3-21
電話番号◉ 03-3233-1555
営業時間◉月～金 11:00 ～ 22:00、土日祝 10:00 ～ 20:00
WEB ◉ https://asushoku.com/

●稲荷湯
住所◉東京都千代田区内神田 1-7-3
電話番号◉ 03-3294-0670
料金◉大人 460 円、子ども 180 円
開館時間◉平日・土 14:50 ～ 24:00、祝日 14:50 ～ 22:30

日本武道館

住所◉東京都千代田区北の丸公園 2-3
電話番号◉ 03-3216-5100
WEB ◉ http://www.nipponbudokan.or.jp/

東京ドーム

住所◉東京都文京区後楽 1-3-61
電話番号◉ 03-5800-9999
開館時間◉施設によって異なる
WEB ◉ https://www.tokyo-dome.co.jp/

湯島聖堂

住所◉東京都文京区湯島 1-4-25
電話番号◉ 03-3251-4606
入場料◉無料
公開時間◉ 9:30～17:00（冬季は16:00まで）
※土・日・祝日は大成殿公開（10:00～閉門時間まで）
WEB ◉ http://www.seido.or.jp/

東京文化資源区案内 4
「スポーツを遊ぶ！　近代スポーツ発祥の地をたどる　神田・皇居・後楽園めぐり」

発行・問い合わせ先◎東京文化資源会議
［住所］〒 101-0054 千代田区神田錦町 2-1
［電話］ 03-5244-5450 ［FAX］ 03-5244-5452
［メール］ info@tohbun.jp ［WEB］ http://tohbun.jp/

文・写真／ Sam Holden、潘夢蘇、遠坂裕紀子、柳与志夫
デザイン／スタジオ・ポット
2018 年 9 月 25 日発行／ 7,000 部／両面 4 色／マットコート 90kg

協賛企業

朝日信用金庫
AGC ※7月1日より社名変更しました
Google Japan G.K.
JTB 感動のそばに、いつも。
新日鉄興和不動産
ZENRIN
Tanseisha
dentsu
株式会社 東京ドーム
野村不動産
HAKUHODO
都市に豊かさと潤いを 三井不動産
三菱地所
株式会社ムラヤマ
安田不動産
YKK

UP TOKYOを歩こう

東京文化資源会議がつくる東京都心北部の新たな魅力

東京文化資源会議は、東京都心北部（東京文化資源区、通称 UP TOKYO）の豊かで多様な文化資源に注目し、その発掘・活用を通じて新たな文化資源の再創造につなげることを目的とする、産官学民の有志からなる任意団体です（2015年4月発足）。

本パンフレットは、その活動の一環として、この地域内のユニークな文化資源を体験できる、ユニークなルートを紹介するシリーズです。

「東京文化資源区案内」シリーズ

Vol.1　**江戸・東京の精神文化を紐解く**
湯島・神田・秋葉原めぐり（2017年4月1日発行）

Vol.2　**江戸・東京　知の交差路“グレーターアキバ”**
秋葉原・神田・神保町めぐり（2018年7月25日発行）

Vol.3　**江戸・東京 水を愉しむ文化都市**
上野・本郷・後楽園めぐり（2018年8月25日発行）

歴史を知り、さらに愉しむ

近代スポーツ発祥と発展の地を歩く

明治時代以降、数々のスポーツが西洋からここ東京に伝えられ発展をみました。近代スポーツ受容にまつわる都市の歴史をご紹介します。

1 文化資源としてのスポーツ

▶スポーツ文化受容と都市の歴史

現在私たちが親しんでいるスポーツの多くは、明治時代の文明開化によって欧米からもたらされました。野球・サッカー・テニス・陸上競技・ラグビー・ボクシングなどの欧米発祥のスポーツは明治初期にはすでに日本に伝えられています。それらは、日本で近代的な教育制度が整えられていくなかで、「体育」の科目を通して教育のなかに組み込まれていきました。一方で、野球に代表されるように大衆の支持を得て広く受け入れられていったスポーツもあります。

神田には、私たちが現在身近に親しんでいる各種スポーツの発祥の地がいくつもあります。そして周辺に大学が集積したことで、古書店街やスポーツ店街が形成されることになりました。また、後楽園は、東京ドームや後楽園ホール、後楽園競輪場といった「観る」スポーツ文化を牽引してきた場所であると同時に、アイススケート場やローラースケート場、ボウリング場、バッティングセンターといった「プレイする」スポーツ文化のブームを生み出してきた歴史ある場所です。今日では、皇居ランナーたちの姿が一般的となりましたが、周辺にはランナー文化を支える各施設が集まっています。これらのスポーツ文化とそれぞれの地域が歴史的にどう関わってきたかをみていきましょう。

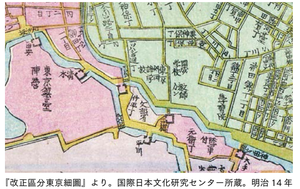
2 神田は近代スポーツ発祥の地

▶学生街の形成とスポーツ

江戸時代、現在の神田エリアの大部分は広大な武家屋敷とそれに付随して立つ町人地でした。現在の神保町周辺は旗本・神保家の広大な屋敷があり、その前を神保小路と呼んだことが町名の由来だと伝えられています。明治になると、それまで武家屋敷が立っていた土地に多くの学校が立ち並び、江戸時代には火除け地として空き地になっていた護持院原（現在の一ツ橋から神田錦町にかけての一帯）には東京大学・一橋大学・東京外国語大学・学習院の前身校が創立されました。その北東に位置する神田駿河台地区では時を同じくして私立大学の創立が進みました。結果として、一ツ橋・錦町界隈から神田駿河台にかけては多くの学生を擁する文教地区として発展していくこととなります。そして、神保町には学生たちが教科書や参考書を売り買いする古書店が並ぶようになりました。

▶お雇い外国人とスポーツ

明治期にお雇い外国人として来日し、日本の近代化に携わった外国人教師たちはスポーツの普及にも大きく貢献しました。日本に最初にベースボール（野球）を伝えたのは1871年に来日し、開成学校（後の東京大学）で教えた米国人ホーレス・ウィルソンとされています。イギリスから1875年に来日したフレデリック・ウィリアム・ストレンジは、東京英語学校で英語教師として働きながら、陸上競技やボート、野球といった競技の普及に努めました。ストレンジは日本における近代スポーツの父とされており、スポーツマンシップの考え方を説きながら、学生に課外活動としてスポーツに取り組ませることで、今日の日本の学校において一般化している「部活動」や「運動会」といった活動の礎を築いたといわれています。ジョージ・アダムス・リーランドは1878年に来日し、体操伝習所教授として学校体操の指導者養成に尽力しました。体操伝習所は1878年に明治政府によって現在の東京都千代田区に設立された日本最初の体育の研究・教育機関で、体育教授法の研究と体育教員の養成を目的として、全国の学校に近代体育を普及させる礎を築きました。



『改正區分東京細圖』より。国際日本文化研究センター所蔵。明治14年当時の神田一ツ橋から御茶ノ水にかけての地図。開成学校や東京外国語学校、東京師範学校の名称がみてとれる。

東京YMCAでバレーボールの様子。出典：東京YMCAウェブサイト。

▶東京YMCAとスポーツ

1880年から「東京キリスト教青年会」としてさまざまな社会活動を続けてきた東京YMCAも日本の近代スポーツの紹介と発展を語るうえで欠かせない存在です。東京YMCAは当初銀座に拠点を構えていましたが、1894年に神田美土代町に東京YMCAの会館が新たに建設されました。設計はニコライ堂の設計も担ったジョサイア・コンドルで、赤レンガの壮麗な会館は一千人を収容できる大講堂を備えていました。この建物は関東大震災によって体育館を残して失われてしまいますが、その後二代目の青年会館が建設され、2003年の敷地売却に伴う解体まで、街を象徴する建物として長きにわたり親しまれました。

また、東京YMCAはバスケットボールとバレーボールの普及にも大きく貢献しています。バスケットボールは、積雪する冬季にも屋内で楽しめるスポーツとして1891年にアメリカのYMCA主事によって考案されたものです。バレーボールは、1895年にバスケットボールよりも幅広い層が楽しめるスポーツとして生み出されました。東京YMCA主事だった大森兵蔵が北米留学から持ち帰り、日本に紹介したことがこの二つのスポーツの始まりとされています。

また、1917年には敷地内に日本で最初の室内温水プールを備えた総合体育館がつくられました。ここでは「クロール泳法」など、旧来の古流泳法とは異なる近代泳法が指導され、国内での普及へとつながっていきました。オリンピック出場選手など多くの水泳選手がこの室内プールで練習をしました。体育館にはボウリングアレーも設置され、大会も開かれていたようです。そのほか、フェンシング、ボクシング、レスリング、器械体操、ウォールハンドボールなど、それまで庶民には馴染みのなかった種目の多くが東京YMCAによって広く普及されていくことになりました。

東京YMCA総合体育館プールでの練習風景。出典：東京YMCAウェブサイト。

3 「スポーツ」＝「遊戯」の翻訳語

▶坪井玄道による「スポーツ」＝「遊戯」の翻訳語

体操伝習所は、1885年東京師範学校の附属校となり、翌1886年には同校の「体育専修科」に改編されました。同科は東京高等師範学校「体育科」への改組を経て東京教育大学体育学部に継承されたため、一般には筑波大学体育専門学群の源流と位置づけられています。スポーツの概念は、この師範学校の舎監だった坪井玄道によって「遊戯（Play）」と翻訳され、日本に紹介されました。坪井玄道はスポーツが心身鍛練や健康維持を目的とするだけでなく「遊び」であるとして、「遊戯」という訳語を用いました。また、坪井は日本に初めて卓球を紹介した人物です。1902年に坪井がイギリスからラケット・ボール・ネットなどの用具を買い入れて帰国し、当時東京でスポーツ用器具の製造販売を中心的に手がけていた美濃津商店に依頼して卓球用具を試作したのを契機に全国に普及しました。

坪井玄道，田中盛業編，1888,『戸外遊戯法：一名戸外運動法』よりローンテニスについての紹介。

▶嘉納治五郎と近代スポーツ

師範学校で23年と4ヶ月もの長期間にわたり校長を務めた嘉納治五郎は、日本国内に諸派あった柔術を統一して「柔道」とした講道館柔道の創設者として知られています。それまでの柔術や古武術で戦闘技術として重用されてきた当身技と関節技を排除し、あえて武術としての実用性を離れた講道館柔道は、柔術を「競技化（近代化）」することで世界的なスポーツへの発展の道を進むことになりました。嘉納は講道館館長のほか、東京高等師範学校長（一時は文部省普通学務局長を兼務）、大日本体育協会（現：日本スポーツ協会）初代会長、さらにはアジア初のIOC委員を務め、生涯にわたり知育と並立し同じ重みを持つ「体育」の振興に身を投じました。

4 スポーツとエンターテイメント

▶後楽園スタヂアムとプロ野球

1937年、東京砲兵工廠跡地として空地となっていた後楽園の広大な空間に「後楽園スタヂアム」が建設されました。プロ野球の専用球場として建設された後楽園スタヂアムは、その後プロ野球人気・東京巨人軍（読売ジャイアンツ）人気の高まりとあいまって多くの名試合・名プレーを生み出す場となります。後楽園スタヂアムでは野球の試合だけでなく、新潟から貨物列車で大量の雪を運び込んで作り上げた高さ38mものシャンツェをつかったスキージャンプ大会、グラウンドに設置された土俵での大相撲、仮設リングでのボクシング大会なども開催されました。1955年に隣地に後楽園ゆうえんちが開園し、さらにその後ボウリング場やローラースケート場が開設されると、この地には多くの若者が集うようになり、スポーツにとどまらない昭和のレジャーブームを牽引する地域となりました。

▶日本武道館

日本武道館は、「柔道」が1964年東京オリンピックの正式種目に決定したことで建設計画が立ち上がり、1964年東京オリンピック開催直前に柔道競技会場として開場しました。当初は、日本伝統の武道を普及奨励し、心身練磨の大道場としての役割を担うことを設立趣旨として建てられましたが、1966年にビートルズのコンサートが行われて以降は日本における音楽の聖地としても知られるようになり、今日では多くのミュージシャンにとっての憧れの舞台となっています。

竣工当時の日本武道館の様子。写真奥の、現在北の丸公園及び公園駐車場となっている一帯にかけて、旧近衛師団兵営の建物群が残っていたことがわかる。

5 スポーツ店街とスポーツ文化

▶「スポーツの街」としての神田

神田小川町から駿河台下に通じる靖国通りに、スポーツ店が集積しはじめたのは、第二次大戦後からといわれています。明治末には美津濃商店の東京支店が神田小川町に進出していましたが、当時通り沿いの店は学生服を主体とした洋服店や古物商などが主流でした。戦後になって現在のミズノ・ミナミ・ヴィクトリアを中心として、半径500mのなかにスポーツ店が約50店舗近く集まる世界でも類をみない「スポーツ店のメッカ」が形成されました。これらのスポーツ店が1960年代から隆盛していくスキーやスノーボードなどのウィンタースポーツのブームを牽引し、1980年代にはスキー場へ向かうための高速バスの発着場もありました。

神田小川町から神保町にかけての靖国通り沿いにスポーツ店が数多く集積している。

▶マラソンブームと皇居ラン

今日ではすっかり市民ランナーの定番コースとなっている皇居エリアですが、その起源は古く1964年にさかのぼります。皇居ランは、同年の東京オリンピックで銅メダルを獲得した円谷幸吉選手の活躍にあやかり、皇居の外周約5kmを走る「皇居1周マラソン」が開催されたことにはじまります。主催したのは銀座のクラブやバーで、選手はホステスという一風変わった大会だったようです。その後、1970年代には皇居ランが定着しましたが、ランナーは近くで働く官庁職員、会社員に限られていました。2007年の東京マラソンの開設が契機となり、皇居ランは爆発的なブームを迎え、現在では多い時には1万人を越えるランナーが走っているといわれています。皇居ランの普及とともに、現在周辺ではランナーを対象としたランナーズステーションやランニング後に汗を流すための銭湯施設、栄養バランスの考慮された食事を提供する飲食店、リラクゼーションサロンなどが充実しています。

スポット 1

スポーツ文化を支える
「スポーツ店のメッカ」

神田スポーツ店街

［住所］東京都千代田区神田小川町～神保町

大阪で創業した美津濃商店（現在のミズノ）が、明治45年この地に東京支店を構えました。美津濃商店の進出を機に、他のスポーツ専門店も次々と進出したほか、他業種からスポーツ店へと商売を移行した店も現れ、ミズノ・ミナミ・ヴィクトリアを中心とした神田小川町から神保町にかけてのスポーツ店の集積が「スポーツ店のメッカ」の形成へとつながりました。1964年の東京オリンピック開催以降、スポーツをレジャーとして楽しむ機運が高まり、時代ごとに様々なスポーツが流行しました。1960年代から1990年代にかけてのスキーやスノーボードのブームを受けて、スポーツ店街にはウィンタースポーツの専門店が数多く並ぶようになりました。2000年代以降、健康志向の高まりや東京マラソンの開設によって皇居ランナーが激増してからは、ランニンググッズの取り扱いも多く見られるようになります。それに限らず、他にもゴルフ、野球、サッカー、各種スポーツウェアなど、ありとあらゆるスポーツグッズをここでは見つけることができます。神田小川町のスポーツ店街はいつの時代もスポーツブームとともに発展してきたといえるでしょう。

ジョサイア・コンドル設計の初代基督教青年会館。出典：東京 YMCA ウェブサイト。

小川町から神保町にかけての靖国通り沿いにぎらりと並ぶスポーツ店街の様子。

見どころ YMCA 跡地

東京 YMCA（Young Men's Christian Association）は1880年に設立された日本における最初の基督教青年会です。設立当初は銀座に拠点を構えていましたが、1894年に神田美土代町に英国の建築家ジョサイア・コンドルの設計による赤レンガ造り3階建ての「青年会館」を建てて以降2003年の敷地売却までの間、長らくこの地で活動しました。ここには日本最初の室内温水プール付きの総合体育館も建立され、オリンピック選手をはじめとして多くの人々が施設を利用しました。

見どころ 神田スポーツ祭り

神田スポーツまつりは、1995年に神田スポーツ店連絡協議会主催のもと始まった誰もでも参加できるスポーツのお祭りです。毎年10月末に開催され、スポーツ店や周辺大学の学生たち、スポーツに関わる人々の協力のもと、各種イベントやスポーツを気軽に楽しむことができます。

また、2016年からは地元有志による、音楽と本とスポーツが融合したイベント「ワクワク festa」も、同じく神田小川町で毎年10月上旬に開催されています。

神田スポーツ祭り小川広場会場に向かう入口の様子。靖国通り会場では、スポーツ店街による各種キャンペーンも開催される。

スポット 2

都内屈指の人気ランニングコースと
ランナーを支える施設

皇居ランナー向け施設

［住所］東京都千代田区皇居周辺

ランニングステーション

皇居ランニングとは皇居の外周路を周回するランニングコースで、一周の長さは約5km、高低差は26mです。周回コースなのでどこからでも自由にスタートできますが、地下鉄の駅がある「桜田門」「竹橋」「半蔵門」がスタート地点として人気があります。また、ランニングにあたっては基本的に「反時計回り」で走ることが推奨されています。コースの起伏は、桜田門から竹橋までは平坦な道、竹橋から千鳥ケ淵公園までは登り坂、千鳥ケ淵公園から半蔵門までは再びほぼ平坦な道、そして半蔵門から桜田門までが下り坂となっています。コースの途中に信号がなく、車道を横切らずにランニングできることや、桜田門や二重橋、国立劇場、国会議事堂など、東京都心部ならではのスポットを走れることが魅力です。皇居の外周には、お堀と周辺の超高層ビル群の対比、桜田門や半蔵門などの江戸城の遺構といった名所が少なくありません。そのため、東京の歴史的景観や季節ごとの景色を楽しみながら走ることができます。

鹿屋アスリート食堂

見どころ 鹿屋アスリート食堂

鹿屋アスリート食堂は、株式会社バルニバービ・鹿屋体育大学・鹿児島県鹿屋市からなる産学官連携プロジェクトとして2014年に開業しました。スポーツ栄養学に基づいた「ご飯、汁物、10種類以上の中から選べる3つの主菜」の組み合わせで健康志向に合わせた食事を提供しています。

稲荷湯

見どころ 稲荷湯

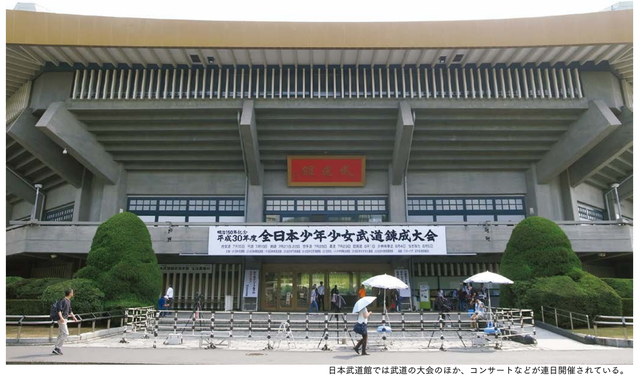
皇居にほど近い内神田に位置する稲荷湯は皇居ランナーが利用できる銭湯としても知られています。創業は1956年（昭和30年）で、昭和時代から皇居ランナーに愛されてきました。富士山の背景画を見ながら熱めのお風呂で疲れを癒せます。

スポット 3

近衛師団兵営地から
武道と音楽の殿堂へ

日本武道館

［住所］東京都千代田区北の丸公園 2-3
［電話番号］03-3216-5100



日本武道館では武道の大会のほか、コンサートなどが連日開催されている。

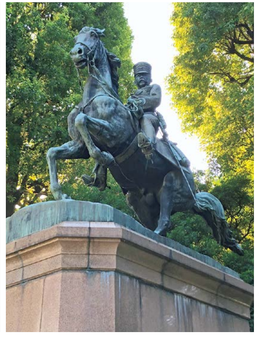
日本武道館は、1964年の東京オリンピックの柔道競技会場として建設が計画され、開幕直前の同年10月3日に開館しました。現在日本武道館が建っている周辺は、江戸時代には徳川氏の御三卿であった田安徳川家が屋敷を構えていました。しかし、明治維新後に屋敷は取り壊され、「近衛師団」の兵営地となりました。「近衛師団」と呼ばれた近衛歩兵第一・第二連隊は、日本陸軍最初の歩兵連隊を基幹として、それに騎兵・砲兵・工兵・輜重兵などの特科部隊が編成され、平時は皇居の警護と儀式の任に当たり、戦時には野戦師団のひとつとして出征することになっていました。1874年の創設後から1945年の太平洋戦争敗戦に至るまでの72年間にわたって、近衛歩兵第一・第二連隊の駐屯地であった空間は、戦後、皇居周辺の緑地として活用されることが決定され、1964年の日本武道館建設を挟んで、1969年に北の丸公園として広く一般に公開されました。

見どころ 田安門

田安門は皇居北側の靖国通りに面した位置にあり、北面する高麗門とその西側に直交する渡櫓門からなる枡形門です。現在の門は1636年（寛永13年）創建とされ、現存する旧江戸城建築の遺構のなかでも最古のものです。

見どころ 近衛師団の名残

北の丸公園がある場所は、江戸時代には将軍の近親者や側近の有力譜代大名の屋敷地でしたが、明治維新後には近衛兵営をはじめ陸軍関係の施設が置かれました。公園内や付近には、近衛歩兵第一・第二連隊の記念碑や、旧近衛師団司令部庁舎である東京国立近代美術館工芸館など、近衛師団の名残がいくつか残されています。写真は、近衛師団長を務めた北白川宮能久親王銅像（新海竹太郎作）です。



左ノ九段下から北の丸へ向かう人々が行き交う田安門。
右ノ北の丸公園のなかには吉田茂像をはじめとする銅像が建てられている。

スポット 4

プロ野球・プロレスを牽引してきた
スポーツの聖地

東京ドーム

［住所］東京都文京区後楽 1-3-61
［電話番号］03-5800-9999

野球殿堂博物館入口の様子。館内ではプロ野球だけでなく、アマチュア野球や野球そのものの歴史に触れることができる。

1934 年に、日本初のプロ野球チームである大日本東京野球倶楽部（現在の読売巨人軍）が創立し、次いで東京・大阪・名古屋など各地にプロ球団が設立されました。東京市内にプロ野球専用の新しい球場を作る気運が高まり、1937 年に東京砲兵工廠跡地として広大な空き地となっていたこの場所に「後楽園スタヂアム」が誕生しました。この球場はホームランが出やすく設計されていたので、プロ野球の醍醐味をファンに満喫させ、多くの観客を集めることとなります。その後、太平洋戦争のためにプロ野球は中断を余儀なくされ、球場自体も高射砲の陣地となり、グラウンドは菜園地となった苦難の時期もありました。しかし、敗戦後の 1946 年の早慶戦を皮切りに野球が再開されると、後楽園スタヂアムは球史に残る偉大な選手達による名勝負の舞台として黄金時代を迎えます。1987 年に、球場は五十年にわたる歴史に幕を閉じることとなりました。翌 1988 年には日本初の全天候型多目的スタジアムである東京ドーム（愛称 BIG EGG）が開場し、今日もプロ野球選手達が熱いプレーをみせています。

東京ドーム正面の様子。

見どころ 野球殿堂博物館

野球殿堂博物館は、1959 年に日本初の野球専門博物館として開館しました。主に日本のプロ野球で顕著な活躍をのこした選手や監督、コーチ、また野球界の発展に貢献した人物の功績を称え、顕彰するために創設されました。館内では、殿堂入りした人々の肖像レリーフの他、野球に関する歴史資料を数多く展示しています。

見どころ 後楽園ホール

後楽園ホールは、1962 年に開場してから今日にいたるまで、ボクシングやプロレス、キックボクシングを始めとする格闘技の試合開場としてファンから愛されてきました。日本で行われるプロボクシングの試合の約半数がここ後楽園ホールで開催されていることから、「格闘技の聖地」「格闘技のメッカ」と呼ばれています。

歴史のひとコマ

後楽園競輪場跡

東京ドームが建っている場所には、以前「後楽園競輪場」がありました。後楽園競輪場は 1949 年に戦後復興を目的として開設されました。競輪場として大変な人気を博し、コース内側のグラウンドではサッカー国際試合や、格闘技の興行、モーターショーが開かれたこともありましたが、都政による都営ギャンブル廃止の方針を受けて、1973 年に競輪場は廃止されました。その後は、「後楽園競技場」として、後楽園ジャンボプールや後楽園ジャンボゴルフ練習場として活用されましたが、1988 年の東京ドーム建設に伴い姿を消しました。

スポット 5

江戸の「昌平坂学問所」にはじまる
近代教育発祥の地

湯島聖堂

［住所］東京都文京区湯島 1-4-25
［電話番号］03-3251-4606

湯島聖堂は、林羅山が上野忍ヶ岡の私邸に建てた孔子廟を 1690 年、徳川五代将軍綱吉が儒学の振興を図るために現在の地に移したことが始まりとされています。1797 年にはここに幕府直轄の学問所、昌平坂学問所が開設されました。明治時代に入り、昌平坂学問所が閉じると、敷地は東京高等師範学校と東京女子高等師範学校の校地へと移り変わっていきます。

のちに高等師範学校に統合される体操伝習所は、当初、体育教員・指導者の養成機関として 1878 年に現在の神田一ツ橋に設立されましたが、1885 年に東京師範学校の附属校となり、翌 1886 年東京師範の高等師範学校昇格にともなって同校の「体育専修科」に改編されると、湯島聖堂構内に校地を移しました。嘉納治五郎は、1893 年から 1920 年までの 3 期 23 年半にわたり高等師範学校・東京高等師範学校の校長を勤め、日本の学校教育の充実、体育・スポーツの発展に尽力しました。

見どころ 入徳門

湯島聖堂内の建造物は、関東大震災のときに発生した火災によってそのほとんどを焼失してしまいました。この入徳門は、1704 年に建造された木造の門で、関東大震災でも燃えずに遺った江戸時代からの貴重な遺構となっています。

大成殿につながる階段の前に入徳門がある。

見どころ 御茶ノ水の茗渓

JR 御茶ノ水駅のホームは神田川と面し、関東大震災の復興建築として建造された聖橋が美しい景観を作りだしています。江戸時代の御茶ノ水周辺は緑深く、夏には蛍も舞う場所だったといわれています。淡谷の美しさは、中国の赤壁にたとえられ、当時の風流人から「茗渓」と呼ばれたそうです。東京師範学校の時代には、ここ神田川上にボートが並べられ、大学対抗戦が行われたこともありました。

御茶ノ水橋から水道橋方面の茗渓の様子。

歴史のひとコマ

東京高等師範学校跡

東京高等師範学校が建っていた場所は、現在では東京医科歯科大学の敷地になっています。明治 17 年の陸軍測量部によって作成された地図をみると、現在の医科歯科大学敷地全体が昌平坂学問所跡地であることや、東京高等師範学校のとなりには東京女子高等師範学校（後のお茶の水女子大学）が建っていたことがわかります。

スポーツの歴史的スポットをさらに散策しよう

▶各スポットの場所は地図上の★マーク参照

キッチンカロリー

昭和 25 年の創業以来、半世紀以上にわたって神田・御茶ノ水界隈でスポーツに励む学生の胃袋を満たしてきた老舗洋食店。名物はスパゲッティの上に炒めた牛肉と玉ねぎが乗った「カロリー焼き」です。

住所……東京都千代田区神田小川町 3-10 江本ビル 1F
電話番号…03-3291-3266
営業時間…11:00 ～ 22:00（日・祝は 21:00 まで）
定休日……無休

日本サッカーミュージアム

日本サッカー協会が 2002 年 FIFA ワールドカップ日韓大会の開催を記念して開設したサッカーの展示施設です。2002 年ワールドカップの関連資料や日本サッカーの歴史を展示しています。

住所……東京都文京区本郷 3-10-15
電話番号…050-2018-1990（ミュージアム代表）
開館時間…火～金 13:00 ～ 18:00（土日祝・特別開館 10:00 ～）
休館日……月曜
入場料……大人 500 円、小中学生 300 円
WEB サイト……http://www.jfa.jp/football_museum/

学士会館

学士会館は、旧帝国大学出身者の親睦と知的交流を目的とした「学士会」の会館として関東大震災後の 1928 年（昭和 3 年）に建築されました。外壁は昭和初期に流行したスクラッチタイルで覆われています。敷地内には近代大学制度発祥の地の記念碑や野球発祥の地の記念碑も建てられています。

住所……東京都千代田区神田錦町 3-28
電話……03-3292-5936
WEB サイト……https://www.gakushikaikan.co.jp

講道館

1882 年に嘉納治五郎によって創設された講道館柔道の総本部です。柔道の稽古、段位の発行、大会開催、講習会、機関誌の発行、書籍の刊行など柔道普及のための諸活動を行なっています。講道館柔道資料館・図書館では講道館の歴史を知ることができます。

住所……東京都文京区春日 1-16-30
電話番号…03-3811-7152
開館時間…月～金 10:00 ～ 17:00（柔道資料館・図書館）
入場料……無料
WEB サイト……http://kodokanjudoinstitute.org/

ラジオ体操会発祥の地

ラジオ体操は、1928 年に簡易保険局が国民の健康増進のために創定した「国民保健体操」が始まりです。これがラジオ体操として親しまれ全国各地に伝播しました。秋葉原駅近くの千代田区立佐久間公園には、全国に先駆けて「早起きラジオ体操会」を始めた地として記念碑が建てられています。

住所……東京都千代田区神田佐久間町 3-21

人を、想う力。街を、想う力。
三菱地所グループ

ラグビーワールドカップ 2019™
日本大会をオフィシャルスポンサーとして応援

TM © Rugby World Cup Limited 2015. All rights reserved.

三菱地所は、2019 年 9 月 20 日～ 11 月 2 日に日本の 12 都市で開催される、「ラグビーワールドカップ 2019TM 日本大会」をオフィシャルスポンサーとして応援しています。ラグビーワールドカップは、4 年に 1 回、約 2 か月をかけて行われる大会で、世界で最も規模が大きく、また最も愛されているスポーツイベントの一つです。2019 年の日本大会は 9 回目の開催となり、アジアで初めて行われます。

ラグビーワールドカップの選手たちは日々の努力と熱い闘志で、入々、そして街や国に誇りと勇気を与えてくれます。またラグビーにおける「One for all, All for one」の精神は、「人を、想う力、街を、想う力」というスローガンのもと、人々や世界への思いを胸に、地域社会と共に街づくりにチャレンジしてきた当社の基本理念に通じます。
三菱地所は、本協賛を通じて、本大会の成功に貢献していきます。

〈ラグビーワールドカップ 2019™ 日本大会　三菱地所公式サイト〉
http://www.mec.co.jp/rugby/

安田不動産

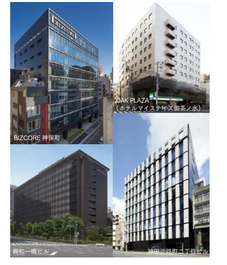
継承×創造

わたしたちの企業活動は、不動産を通した社会貢献、地域に根ざした歴史・文化を次代へと繋ぎながら、「環境と共生し、住み続け、働き続けられる街」を実現していくことです。忘れてはならないのは、安田善次郎翁創業以来の伝統と永きに亘り培ってきた数々の英知・発想・センス・技術力の継承、そして新たな技術と価値の創造。
この「継承」と「創造」の精神のもと、社会に街に新しい歴史を築いていくためのチャレンジを続けます。

安田不動産株式会社
住所◉〒 101-0054 東京都千代田区神田錦町 2 丁目 11 番地
電話◉ 03（5259）0511（代）
URL ◉ http://www.yasuda-re.co.jp

新日鉄興和不動産

人と向き合い、街をつくる。



ビル、マンションの開発から大規模な都市開発まで、さんなプロジェクトでも、私たちの仕事は“人と共事に向き合うこと”からはじまります。人と人の絆を大切に、新しい「街を創る」。そして、次の世代へ引き継がれるまで「街を育てる」。それが未来につづく街の在り方と考えます。

http://www.nskre.co.jp

Google

Google アプリでお店を探そう。

Google アプリなら、行きたいお店を探したり、道案内も可能です。さらに、クチコミを参考にすれば、いつものお散歩がもっと楽しくなります。

「Google アプリ」で検索してダウンロード

お店のオーナーの方は、Google マイビジネスで、お店情報の登録が行えます。

詳しくはこちらから
Google マイビジネス　検索